

第9回 定時総会 開催

平成18年度の活動を総括する第9回定時総会が3月3日(土)午後1時30分から立川センタービル・NHK会議室で、来賓1名と会員19名の計20名が出席して華やかに開催されました。



渡辺代表

司会進行の山口弘二総務幹事が開会を宣し、渡辺 實代表幹事から「来年の創立10周年記念行事に向けた取り組みを今日の総会で十分にご審議願いたい」との要望の挨拶がありました。



三矢来賓

次いで、来賓のNHK西東京営業センター・三矢 薫氏から「NHKは3ヵ年経営計画を立て、視聴者参加型番組を増やしています。皆さんの積極的な投稿・ご参加と、事件・事故の携帯電話等によるご協力をお願いします」とのご挨拶を頂きました。

その後、奥川 實会員を議長に選任して議案の審議に入りました。まず、平成18年度事業報告が菅原富雄書記幹事からなされ、「実演講習会」の実施、会員の「みんなのビデオ」の多数放映、「山下講評」により会員の作品制作レベルが特段に向上、などの嬉しい報告が承認されました。



山口司会



奥川議長



菅原幹事



古谷幹事



岡山会計監査

次いで、古谷 毅会計幹事から18年度会計報告がなされ、質疑のあと、岡山正一会計監査から監査報告がされて、承認されました。

19年度事業計画案が渡辺代表幹事からあり、まず、次年度から定例会を第四土曜日に変更すること、クラブのホームページを開設すること、などの新しい提案を含めた通常の実業計画が承認されました。そのあと、「創立十周年記念行事」実施案が説明され、時間を掛けて熱のこもった質疑応答が交わされて、記念誌を刊行し、記念式典・祝賀会を開催する方針が承認されました。



19年度会計予算案は古谷幹事から提案され、異議無く承認されました。

そのあと、19年度役員選出の投票が行われ、代表幹事；渡辺 實(再任) 書記幹事；菅原富雄(再任) 総務幹事；山口弘二(再任) 会計幹事；荻野信夫(新任)の4名が選出されて、それぞれの簡単な挨拶がありました(写真左から、荻野、渡辺、菅原、山口の新役員)。

会計監査は後日、引続き 岡山正一会員に委嘱されました。

以上ですべての議事が終了し、全員で記念写真を撮影して、総会が無事終了しました。



第2回クラブ内ビデオコンテスト入賞者表彰式

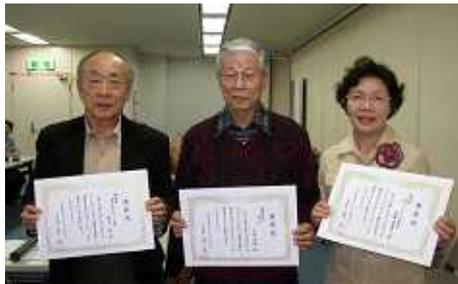
総会終了後、第2回コンテストの最優秀賞・石原、優秀賞・渡辺（實）、加藤の3会員に対する表彰式が行われ、会員の拍手の中、渡辺代表幹事から表彰状が授与されました。おめでとうございます！



最優秀賞の表彰



賞状



左から 渡辺（實）・石原・加藤さん

総会後の定例会

総会後はほとんど時間が無く、放映ビデオの上映のみを行って、散会しました。

放映ビデオの上映と検証

菅原・西永さんが録画された2月分の3回9本を上映し、検証しました。今回は会員の放映はありませんでした。

5月例会のお知らせ

5月から第4土曜日です。

5月26日（土）午後1時30分～5時

4月撮影会の作品を5分以内にまとめて発表してください。『撮影会作品集 No. 5』作成のため、発表後のテープはお預りします。

また、'07年度会費3,000円を納入ください。

（編集後記）

創立10周年記念行事の中身が総会で固まりました。1年間掛けて、皆の努力で立派な記念誌を作しましょう！

本文の文責・レイアウト等：渡辺（實）

印刷：菅原

みんなの広場



「山・川・地蔵」

古谷 毅

ビデオを習い始めた頃、先生から「山川地蔵では駄目だよ」とよく言われた。意味は山があるから、川があるから、お地蔵さんがあるから撮りましたと、テーマもストーリーもなく漫然と撮っては駄目ということ。趣味の山の会での山行をビデオに撮って会員に分けてあげて喜ばれたが、最初の頃の作品を見ると、日帰りの山を20分もかかって散漫として冷や汗ものだ。山のビデオも13年間でVHSテープで18巻127作品になった。そして1本で平均8分位にまとまるようになった。カットは出来るだけ短く、同じ景色や花は二度出さない、同じコースを上下する山は登頂までと心がけて編集している。



只今「悪戦苦闘」中

荻野 信夫

ある雑誌で見たアニメーション3D作成ソフト、知人に「購入して使ってみようか」、相談する。知人いわく「君の作品はへたつまが取り柄、今の絵柄で作品の内容を吟味して、レベルアップしたほうがいいよ・・・」とのアドバイス。そうか、それなら買ってものにならなくてもともだ。早速買って使ってみる。専門用語が一杯の説明書、アスベストを大量に吸った肺のように、ぼろぼろになっている脳にはチンプンカンプン。悪戦苦闘の中、一休みしてふと想う。「へたつまか・・・彼もうまいこと言っな・・・」と。知人の顔が浮かぶ。こうして今もものにならず、悪戦苦闘中である。